

ブッポウツウ

全長約30cm。深い青緑色をした美しい夏鳥です。赤いクチバシが特徴。



(写真提供：森の都愛鳥会)

渡り鳥たちの重要な中継地・舢倉島

舢倉島は、能登半島から北に約50kmの地点にある離島（火山島）です。周囲わずか5kmほどの小さな島にもかかわらず、360種類以上もの野鳥が観察されています。石川県全体で記録されている野鳥は約450種類なので、舢倉島に行けばその80%を観察できる計算になります。

また、舢倉島は渡り鳥の重要な中継地となっており、夏鳥や冬鳥、旅鳥など様々な渡り鳥がやって来ます。日本で渡り鳥と分類されるほとんどの種類を観察することができるのも舢倉島の特徴と言えます。

野鳥の宝庫、また世界有数の渡り鳥の交差点とも称される舢倉島は、日本では他に類を見ない絶好のバードウォッチングスポットなのです。ここでは、舢倉島における渡り鳥ウォッチングの魅力の一端をご紹介します。

夏鳥

春・夏に日本に飛来し、秋になると日本を離れて越冬地に移動する。主に南方から渡来し、日本で繁殖（子育て）をする。



ヨウカ

体は黒っぽい茶色で、地面にうずくまると、それが保護色になって中々見つかりません。



チゴモズ

全長約18cm。お腹は白色で、背中は茶色をしています。漢字では稚児百舌と書きます。



イヌカ

オスは全身が赤色。特徴的な形のクチバシで、松ぼっくりを開いて中の種子を食べます。

旅鳥

春・秋の移動の途中に、日本に立ち寄る。主に北方で繁殖（子育て）を行い、南方で越冬する。



コウライウグイス

漢字では高麗鶯。全身黄色の鮮やかな色をした鳥。舢倉島には渡りの途中に飛来します。



ツバメチドリ

全長約25cm。体は灰～茶色で、クチバシの根本は赤色。飛ぶ姿がツバメにそっくり。



キタツナガセキレイ

全長約15cm。お腹は鮮やかな黄色で、背中は深緑色。セキレイ類の中では爪が長い。

舢倉島へのアクセス

輪島港から舢倉島港への定期船が運行しており（1日1便、所要時間約1時間30分）、これが島への唯一のアクセス方法になっています。

定期船の出航は、当日の天候に大きく左右されるため、強風などの悪天候の場合は船が欠航になります。島を訪れる際には注意が必要です。

